

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
商	商	夜・通信	10		4	14	13	
	経営	夜・通信			4	14	13	
経済	経済	夜・通信			4	14	13	
言語コミュニケーション	英語コミュニケーション	夜・通信			4	14	13	
国際関係	国際関係	夜・通信			4	14	13	
	国際メディア	夜・通信			4	14	13	
人間社会	福祉心理	夜・通信			4	14	13	
	人間スポーツ	夜・通信			4	14	13	
	スポーツ科	夜・通信			4	14	13	
医療健康	理学療法	夜・通信			4	14	13	
経済	経済 English Track Program	夜・通信	10		4	14	13	
国際関係	国際関係 English Track Program	夜・通信			4	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/pdf/2022jitsumu_keiken_kamoku.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/officers.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2021.4.1 ~ 2023.3.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	他法人役員	2021.4.1 ~ 2023.3.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	他大学名誉教授	2021.4.1 ~ 2023.3.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	他法人役員	2021.4.1 ~ 2023.3.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	他法人役員	2021.4.1 ~ 2023.3.31	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>													
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)の作成過程・公表時期</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12月上旬～12月下旬</td> <td>教員宛に担当科目の通知及びシラバス作成依頼</td> </tr> <tr> <td>12月中旬～1月上旬</td> <td>シラバス入力期間</td> </tr> <tr> <td>～1月末日</td> <td>担当者によるシラバス記載内容の確認～修正</td> </tr> <tr> <td>2月上旬～3月中旬</td> <td>学部長～学長による内容確認</td> </tr> <tr> <td>3月下旬～</td> <td>Webにてシラバス公開</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業テーマ及び授業内容の記述を体系的な視点から授業の位置付け・学修の狙い等が分かるよう配慮した記述とすべく、授業方法に、講義・演習他、アクティブ・ラーニング方式等をシラバスに明記するよう依頼し、実質性のない授業計画にならないよう具体例を提示したシラバス作成要領を準備している。 ・シラバス記載項目として、授業(含実務経験のある教員等の実務経験を活かした実践的教育授業)の内容・方法、各回の授業計画、到達目標、成績評価の方法・基準、事前事後準備学修、試験・課題等のフィードバック方法に加え、教科書・参考文献・成績評価基準に対しての補足記載欄、特記事項・関連科目や履修上望むこと・授業に関する質問への対応について項目を設けている。 ・作成過程において、担当者(第3者)が都度チェックを行い、実質性のないシラバスについては改善を指し示し、改善されるまで再作成を依頼している。 		時期	内容	12月上旬～12月下旬	教員宛に担当科目の通知及びシラバス作成依頼	12月中旬～1月上旬	シラバス入力期間	～1月末日	担当者によるシラバス記載内容の確認～修正	2月上旬～3月中旬	学部長～学長による内容確認	3月下旬～	Webにてシラバス公開
時期	内容												
12月上旬～12月下旬	教員宛に担当科目の通知及びシラバス作成依頼												
12月中旬～1月上旬	シラバス入力期間												
～1月末日	担当者によるシラバス記載内容の確認～修正												
2月上旬～3月中旬	学部長～学長による内容確認												
3月下旬～	Webにてシラバス公開												
授業計画書の公表方法	https://tiu-op-prtl.tiu.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp												
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>													
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスにおいて予め学生に示された成績評価基準(平常点・試験・レポート・その他)により厳格かつ適正に評価を行っている。各項目については曖昧さを排除するために、詳細欄を設け、補足的な説明を付すことにより成績評価基準をより明確に示している。 ・1年次生の履修科目(必修)において、ルーブリックを基に評価をしている。 ・Moodle (Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment) を利用しての学修意欲の把握・評価を行っている。 													

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 本学では全学的に統一した評価基準としてGPA制を導入しており、2016年度からは、さらに、国際標準化と厳格適用を方針として、下記の評価基準とした。

・評価基準

各授業科目の成績は100点を満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とし、不合格科目には単位の認定は行っていない。成績は、下表「成績評価・評価点及び得点」の中の「成績評価」として成績表に表示、発表している。なお、表の「得点(総合点)」は、試験結果をそのまま下記の表にあてはめるわけではなく、平常点、定期試験、その他(例えば、授業での報告、課題の提出状況と内容など)をシラバスに明示の通り総合したものであり、それにより成績評価が行われている。

・成績評価・評価点及び得点

成績評価	評価点(GP)	得点(総合点)
A	4.0	96-100
A-	3.7	92-95
B+	3.3	88-91
B	3.0	84-87
B-	2.7	80-83
C+	2.3	76-79
C	2.0	72-75
C-	1.7	68-71
D+	1.3	64-67
D	1.0	60-63
F	0.0	0-59

・GPAの求め方(計算方法)

各評価に対するグレードポイント(評価点=GP: Grade Point)は「成績評価・評価点及び得点」の示すとおり、GPA値は履修科目のグレードポイントに科目ごとの単位数を乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して求められる(単位数による加重平均)。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/gpa.html
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
 本学は、(1)建学の精神および教育理念・教育目的に則り、グローバル社会の発展に貢献できる人材としてもつべき「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度・規律」「技能・表現」の5つの基礎力を修得し、(2)学則に定める所定の卒業要件を満たした者に、学士の学位を授与している。

学位授与基準及び学位授与手続きについては、ディプロマ・ポリシー、及び卒業要件の形で学生ガイドブック【履修編】に明示され、また年度初めのガイダンスで説明を行っている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/financial_data.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/financial_data.html
財産目録	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/financial_data.html
事業報告書	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/business_report.html
監事による監査報告(書)	https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/audit_report.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.tiu.ac.jp/about/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html)</p> <p>(概要) 商学部は、多様な国内・国際ビジネスの仕組みを理解し、ビジネス上の諸課題に実践的に対応できる能力を備えた人材を養成します。 商学科はビジネスにおいて必要とされる多様な専門知識を持ち、その応用能力を備えた人材を養成します。 経営学科は、経営に関する専門知識と実践力を持ち、それらを実社会で応用できる人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/)</p> <p>(概要) 商学部は、全学 DP で示す 5 つの基礎力を修得し、学則の定める卒業要件を満たし、次の能力を修得した者に学士の学位を授与します。 〔商学科〕：学士（商学） 1. 幅広い教養を基盤にビジネスに対する多様な知識と技術を有する。 2. 修得した知識と技術を基礎として、国内外で展開するビジネス社会で活躍するための専門性と実践力・応用力を有する。 〔経営学科〕：学士（経営学） 1. 幅広い教養を基盤にビジネスに対する多様な知識と技術を有する。 2. 修得した知識と技術を基礎として、急速な社会変化への対応力を持ち、ビジネス組織の運用を担う力を有する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/)</p> <p>(概要) 商学部は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。 1. 初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。 2. 専門課程で学修する多くの科目の中から、学生の関心・進路に応じたテーマを中心に学べる「複数の履修コース」を設けます。 3. 基礎演習（2 年次）・専門演習（3 年次および 4 年次）において、商学および関連分野の多様な学修・研究を可能にします。 4. 地域と連携した講義や実践的な学修・活動を通じて、社会とつながる学修を進めます。 5. 多くの専門科目および演習・実践的な学修において、社会の現場における課題に果敢に取り組む実践力を磨く学修を行います。 上記 CP に加え、学科ごとに次の方針を定めます。 〔商学科〕 1. 専門課程への導入のために、商学科の学科内専門共通科目を選択必修科目として定めます。 2. 商学科の中核的な科目として、「マーケティング」「国際ビジネス」「地域・公共」「データサイエンス」の 4 分野を設けます。 〔経営学科〕 1. 専門課程への導入のために、経営学科の学科内専門共通科目を選択必修科目として定めます。 2. 経営、会計・ファイナンス、情報、データサイエンスの専門分野を中核とし、教養コア科目、言語スキル科目、関連する専門科目を包摂した複数の履修コースを提示して、体系的履修を可能とします。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/)</p> <p>(概要) 商学部では、大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。 1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。 2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。 3. 〔商学科〕 市場 (Market) の動向に関心を持ち、ビジネス現場での実践力を修得する意欲を有する。 〔経営学科〕 企業の動向に関心を持ち、経営能力、組織管理能力を修得する意欲を有する。</p>

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html)
(概要) 経済学部は、国際社会に生きる経済人として、世界を舞台にした経済活動に様々な分野からアプローチできる確かな理論と実践力を備えた人材を養成します。 経済学科は、経済学を基軸とした知識をもとに、経済社会のさまざまな現場において、論理的に考え、問題解決を図る実践力を備えた人材を養成します。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/)
(概要) 経済学部経済学科は、全学 DP で示す 5 つの基礎力を修得し、学則に定める所定の卒業要件を満たし、下記の能力を修得した者に学士（経済学）の学位を授与します。 1. 経済社会のさまざまな現場で、経済学の知識・理解を応用し、総合的な思考力・判断力を活用して活躍の場を見出すことができる。 2. 現実の諸問題を経済学の学修から得た専門分野の分析力を活用して解決することができる。 3. 最適な戦略や政策を立案することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/)
(概要) 経済学部経済学科では、全学 CP を共通基盤とし、その上に、経済社会のさまざまな現場において、論理的に考え、問題解決を図る実践力を備えた人材の養成を目指し、次の方針を定めます。 1. 初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。 2. 専門課程では、学生の関心・進路に応じたテーマを中心に学べる「複数の履修コース」を設けます。 3. 現代経済専攻では、 ①経済学の基礎知識修得を基にして、経済について多面的に理解するとともに、広範な知識とスキルを身につけることを目指した科目を配置します。 ②自らの関心にもとづいて、様々な分野から自由に履修することができる<経済総合コース>、スポーツ分野、地域・公共分野からそれぞれ重点的に学ぶ<スポーツ経済コース>および<地域デザインコース>を設定します。 4. ビジネスエコノミクス専攻では、 ①ビジネス社会で必要な経済学的思考や戦略的思考を身に付け、実践の場においてそれらを活用できることを目指した科目を配置します。 ②金融に関する先端的な知識と問題解決能力を身につける<ファイナンスコース>、社会の様々な場面で、目標達成のために必要な戦略や政策を立案できる能力を鍛える<ストラテジストコース>を設定します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/)
(概要) 経済学部経済学科では、大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。 1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。 2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。 3. 幅広い基礎知識や経済学的思考を、経済社会のさまざまな現場において活用したい意欲を有する。 4. ビジネスの現場に必要な論理的思考や戦略的思考とそれらの活用方法を身につけたい意欲を有する。

学部等名 言語コミュニケーション学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html)
(概要) 言語コミュニケーション学部は、国際コミュニケーションの知識と技術を磨き、国際社会で活躍できる応用力と専門性を備えた人材を養成します。 英語コミュニケーション学科は、英語力を基軸に、国際コミュニケーションの知識と実践を統合的に探求し、国際社会に貢献できる人材を養成します。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/)</p>
<p>(概要) 言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科は、全学 DP で示す 5 つ基礎力を修得し、学則に定める所定の卒業要件を満たし、以下の能力を有する学生に、学士（言語コミュニケーション学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の様々な分野において使える英語能力を有する。 2. 国際社会の多様な場面で通用する適切なコミュニケーション能力を有する。 3. 外国の言語の背景にある文化や歴史、文学などについても基礎的な知識を有する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/)</p>
<p>(概要) 言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。 2. 基礎教育分野では、国際人として必要な知識・理解を多角的な学修で磨き、基礎的な教養と幅広い知識を身につけるための多様な科目を設置します。 3. 「言語スキル科目」では、ネイティブ教員による少人数で徹底した実践的な英語力の修得を目指す科目を中心に、英語以外の外国語科目を設置し、多言語の修得を目指すことも可能な科目を配置します。 4. 学修方法の特徴として、多くの授業および演習・実践的な学修において、能動的な学修方法を積極的に取り入れ、社会の現場における課題に果敢に取り組む実践力のある人材を育てるための科目を配置します。特に「自由選択科目」では、ワークショップ型の科目を中心に配置します。 5. 専門教育分野は、「言語学/文学」、「グローバル・スタディーズ」「英語教育」そして「英語ビジネス」の 4 エリアで構成し、本学部の示す「言語と文化コース」、「英語教育コース」、「英語ビジネスコース」の 3 つの履修モデルコースと組み合わせて学生のキャリアや関心に合わせた科目履修を可能とする編成を行います。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/)</p>
<p>(概要) 言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科では、大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。 2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。 3. 学部が重視する英語教育に取り組むための基礎的な能力を有する。 4. グローバル化社会に興味を持ち、多様な社会の理解に努める意欲と行動力を有する。 5. 国際社会におけるコミュニケーションに興味と意欲を有する。

<p>学部等名 国際関係学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html)</p>
<p>(概要) 国際関係学部は、多様な国際社会の本質を理解し、理論と実践を統合し、世界で活躍する人材を養成します。 国際関係学科は、国際問題を多面的思考で捉え、地球市民として現実に立ち向かう知恵と行動力を備えた人材を養成します。 国際メディア学科は、国際的な視野で、的確な情報の受発信を通して真の共生社会実現をめざす人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/)</p>
<p>(概要) 国際関係学部は、全学 DP で示す 5 つの基礎力を修得し、学則に定める卒業要件を満たし、幅広い分野の学修を基礎に、国際関係学または国際メディア学を体系的に理解し、専門的知見を身につけた以下の能力を有する学生に学士の学位を授与します。</p> <p>〔国際関係学科〕：学士（国際関係学） 国際社会の多様な価値観や考え方を理解し国際的問題を解決する実践力を有する。</p> <p>〔国際メディア学科〕：学士（国際メディア学） 国際社会におけるメディアの役割を理解し情報受発信についての実践力を有する。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際関係学部は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。 2. 基礎教育分野に、幅広い知識と教養を修得する科目を設置します。 3. 両学科共通専門分野として、「国際教育プログラム」を設置し、両学科の教育内容の連関性を強化し、相乗効果を高めます。 「国際教育プログラム」には主に「現場学習プログラム」に関連する科目を設置します。 「現場学習プログラム」は、理論と現場を結びつける学修の場とし、学修内容として「フィールドスタディ」「メディア」「インターンシップ」「学習支援・異文化交流」など、学内外をフィールドとする各種プログラムを実施します。 4. 両学科に共通の専門分野「ツーリズム」を設置することで、国際関係学科、国際メディア学科それぞれの専門科目群の学修を活かした多様な「観光人材」を育成します。 上記 CP に加え、学科ごとに次の方針を定めます。 〔国際関係学科〕 「戦争と平和」「国際協力」「現代日本」「国際地域研究」「ツーリズム」の専門分野ごとに専門科目を編成し、履修モデルを設定することにより国際社会および現代日本社会について多面的に学修します。 〔国際メディア学科〕 社会におけるメディアの役割を的確に理解し、国際的な視野から、発信される情報の本質ならびに文化的・思想的背景を読み取るとともに、自ら世界に向けて情報を発信する能力を養うための学修を行う「メディア」「ツーリズム」「コミュニケーション」の専門科目群を設置します。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際関係学部では、大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。 2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。 3. 〔国際関係学科〕 国際社会の多様性を理解し問題解決のための実践力を修得する継続的努力ができる。 〔国際メディア学科〕 国際的なメディアの役割を理解し情報受信能力の向上のための継続的努力ができる。

<p>学部等名 人間社会学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間社会学部は、社会、文化、福祉、心理、スポーツのそれぞれの視点から人間と社会のかかわりを探求し、ひとの幸せのために、優しさや勇気を持って社会に貢献できる教養ある人材を養成します。 福祉心理学科は、現代社会の諸問題を福祉の視点、心理の視点から捉え、専門性と総合的技術を備えた人材を養成します。 人間スポーツ学科は、スポーツの知識及び技能を修得し、社会貢献に欠かせない行動力や指導力を心身の両面から備えた人材を育成します。 スポーツ科学科は、人間諸科学の総合的な視点から、幅広く深い国際的な教養と豊かな人間性を兼ね備えたスポーツ競技者及びその指導者を目指す人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間社会学部は、全学 DP で示す 5 つの基礎力を修得し、学則の定める卒業要件を満たし、次の能力を修得した者に学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公德心を備え、私たちが生活する社会における人と人との関わりを探究できる。 2. 幅広い知識や専門的能力をもって、人々の幸せのために貢献できる。 <p>〔福祉心理学科〕：学士（福祉心理学） 福祉や心理学を通じて他者との共生やこころのしくみを理解し、スペシャリストとして活躍できる。 〔人間スポーツ学科〕：学士（人間スポーツ学） スポーツの視点から心身の関係を理解し、広く社会に貢献できる指導者や支援者としての能力や技術を有する。</p>

<p>〔スポーツ科学科〕：学士（スポーツ科学） スポーツを人間諸科学の視点から理解し、スポーツ界を中心にさまざまな分野に貢献できる指導者や支援者としての能力や技術を有する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/）</p>
<p>（概要） 人間社会学部は、全学CPを共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。 1. 初年次に大学での学修の基礎を身に付けるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。 2. 専門教育分野では、3つの学科にまたがって共通に学べる学科間共通科目と学科独自の専門科目とを設置します。 3. 実践的な知識を実技や実験、実習を通じて学修し、社会の現場における課題に取り組む力を育成します。 4. 資格の取得を希望する者には、学科ごとに必要な所定の科目を履修できるカリキュラムを設定します。 上記のCPに加え、学科ごとに次の方針を定めます。 〔福祉心理学科〕 福祉系専門科目と心理系専門科目を設置し、福祉と心理のどちらも専門的な知識・技能の修得ができるようにします。 〔人間スポーツ学科〕 1. スポーツ理論専門科目とスポーツ実技専門科目を設置し、社会においてスポーツ分野で活躍するために必要な専門的な知識・技能を修得できるようにします。 2. 教職、健康運動指導士などの資格を取得したい者のために、それら資格等に必要な所定の科目を履修できるカリキュラム設定を行います。 〔スポーツ科学科〕 1. スポーツ理論専門科目とスポーツ実技専門科目を設置し、社会においてスポーツ分野で活躍するために必要な専門的な知識・技能を修得できるようにします。 2. 教職、トレーニング指導者などの資格を取得したい者のために、それら資格等に必要な所定の科目を履修できるカリキュラム設定を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/）</p>
<p>（概要） 人間社会学部では、大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。 1. 大学での学修および活動に積極的に取組む意欲と行動力を有する。 2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。 3. 人間や社会に関心を持ち、こころと身体の関係性を軸として、それを社会の実践で活かそうという志を有する。 4. 〔福祉心理学科〕 こころのしくみに関心を持ち、また共生社会の実現や福祉のまちづくりに関心を持ち、実践的に活かそうという意欲を有する。 〔人間スポーツ学科〕 スポーツを通じて心身の仕組みなどについて学んだことを教育や社会活動に活かすことに関心・意欲を有する。 〔スポーツ科学科〕 スポーツを通じて人間諸科学の視点から人間や社会を理解し、科学的なスポーツ実践に関心・意欲を有する。</p>

<p>学部等名 医療健康学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html）</p>
<p>（概要） 医療健康学部は、医療・健康科学における専門的な知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成します。 「理学療法学科」は、現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/）</p>
<p>（概要） 医療健康学部は、全学ディプロマ・ポリシー（DP）で示す5つの基礎力を修得し、学則の定める卒業要件を満たし、次の能力を修得した者に学士の学位を授与します。 1. 生命に対する深い理解や人権の尊重に基づく高い倫理観を有する。 2. 他者を思いやる豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、多様な価値観や考え方を理解できる。 3. 人の健康を支援するための医療・健康科学に関する幅広い専門的な知識や技術を有する。</p>

<p>4. 社会への関心と問題意識を持ち、他者と連携しながら主体的に課題解決できる。</p> <p>5. 医療・健康分野で社会に貢献すべく強い責任感のもと自己研鑽ができる。</p> <p>〔理学療法学科〕：学士(理学療法)</p> <p>1. 良好な人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力を有し、人々に対して思いやりをもって接することができる。</p> <p>2. 理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を備えている。</p> <p>3. 理学療法を必要としている人々を生活者の視点で全人的に理解することができる。</p> <p>4. 理学療法に関する幅広い知識・技術を有しており、各専門職と連携しながら科学的根拠に基づく理学療法を実践することができる。</p> <p>5. 理学療法関連の諸科学の発展や理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応し、生涯にわたり学び続けることができる。</p> <p>6. 臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法のいずれかの分野に関して、より専門性の高い知識・技術を有し、各分野の理学療法に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/)</p>
<p>(概要)</p> <p>医療健康学部は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。</p> <p>1. 基礎教育分野において、良好な人間関係構築に必要な基礎理論を修得した上で、少人数制の演習授業を通じて、人々に対して思いやりをもって接することができるようにする（理学療法学科 DP 1 に対応）。</p> <p>2. 基礎教育分野及び専門教育分野の講義科目で、医療倫理及び理学療法倫理を学び、臨床実習科目で倫理原則の遵守を実践することで、理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を身につけられるようにする（理学療法学科 DP2 に対応）。</p> <p>3. 臨床実習科目において、理学療法を必要としている人々を身体・心理・社会的立場・人格などあらゆる角度から理解できるようにする（理学療法学科 DP3 に対応）。</p> <p>4. 専門教育分野において、科学的根拠に基づく理学療法の実施に必要な知識・技能を修得できるようにする（理学療法学科 DP4 に対応）。</p> <p>5. 統計学や研究法に関する科目、少人数制の演習科目を通じて、専門職の生涯学習に必要な基本的な学修スキルおよび意欲・態度を身につけられるようにする（理学療法学科 DP5 に対応）。</p> <p>6. 理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応するために、近年ニーズが高まっている臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法に関する選択科目を設ける（理学療法学科 DP6 に対応）。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>医療健康学部理学療法学科では、大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。</p> <p>1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。</p> <p>2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。</p> <p>3. 健康・医療に興味関心があり、他者への慈しみの心を持って社会に貢献する意欲を有する。</p> <p>4. 理学療法士を目指し、専門知識や技術を学ぶ意欲をもち、そのための努力をすることができる。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.tiu.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
商	—	22人	3人	0人	0人	0人	25人
経済	—	20人	12人	1人	0人	0人	33人
言語コミュニケーション	—	9人	4人	6人	1人	0人	20人
国際関係	—	20人	13人	2人	0人	0人	35人
人間社会	—	20人	9人	9人	0人	0人	38人
医療健康	—	6人	9人	5人	0人	0人	20人
教養（一般）	—	5人	0人	66人	0人	0人	71人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		137人					137人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://tiu-op-prtl.tiu.ac.jp/kg/japanese/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>◆全学FD研修会：12/1</p> <p>◆商学部：6/2・12/8・1/26 ◆経済学部：3/9</p> <p>◆言語コミュニケーション学部：10/6・3/28</p> <p>◆国際関係学部：3/9・3/24</p> <p>◆人間社会学部：5/12・7/26・2/2・3/16</p> <p>◆医療健康学部：6/9・10/13</p> <p>◆Eトラック運営機構：8/25・3/24</p> <p>◆Global Teaching Institute（GTI）：6/23</p> <p>◆Japanese Language Institute（JLI）：8/16・2/8</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商	260人	236人	90.8%	800人	736人	92.0%	若干名	1人
経済	475人	295人	62.1%	1,820人	1,629人	89.5%	若干名	5人
言語コミュニケーション	250人	171人	68.4%	960人	820人	85.4%	若干名	0人
国際関係	370人	242人	65.4%	1,350人	1,172人	86.8%	若干名	10人
人間社会	475人	456人	96.0%	1,840人	1,766人	96.0%	若干名	3人
医療健康学部	80人	81人	101.3%	160人	143人	89.4%	若干名	0人
合計	1,910人	1,481人	77.5%	6,930人	6,266人	90.4%	若干名	19人
(備考) 経済学部・国際関係学部は2022年秋入試を実施								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商	214人 (100%)	2人 (0.9%)	193人 (90.2%)	19人 (8.9%)
経済	323人 (100%)	5人 (1.5%)	271人 (83.9%)	47人 (14.6%)
言語コミュニケーション	217人 (100%)	0人 (0.0%)	200人 (92.2%)	17人 (7.8%)
国際関係	221人 (100%)	6人 (2.7%)	184人 (83.3%)	31人 (14.0%)
人間社会	412人 (100%)	2人 (0.5%)	387人 (93.9%)	23人 (5.6%)
合計	1,387人 (100%)	15人 (1.1%)	1,235人 (89.0%)	137人 (9.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
教員、警察官、市区町村職員、消防官、アパホテル株式会社、株式会社ベルク、アデコ株式会社、IMSグループ(板橋中央総合病院グループ)、株式会社サイサン、株式会社ラコステジャパン、ヤマト運輸株式会社、アイリスオーヤマ株式会社、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社、株式会社コナミスポーツクラブ、ファーストリテイリンググループ、佐川急便株式会社、株式会社すかいらくホールディング、ディップ株式会社、株式会社東邦銀行、西武信用金庫、アマゾンジャパン合同会社、日本瓦斯株式会社(ニチガス)、大成建設株式会社、Apple Japan 合同会社、京浜急行電鉄株式会社、テイ・エス テック株式会社、日本生命保険相互会社、横浜冷凍株式会社、上尾中央医科グループ、日本郵便株式会社、株式会社ユニクロ、株式会社星野リゾート・マネジメント、株式会社大塚商会、株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社パソナグループ、株式会社ニチレイフーズ、東海東京フィナンシャルホールディングス株式会社、丸大食品株式会社、株式会社日本直販総本社、北野建設株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社パリミキ、株式会社島忠、エステー株式会社、株式会社セールスフォース・ドットコム、ギャップジャパン株式会社、株式会社TASAKI、アース製薬株式会社株式会社鹿島アントラーズFC、KPMGコンサルティング株式会社、アイホン株式会社、大和ハウス工業株式会社、タカラスタндарт株式会社、株式会社栃木銀行、日清医療食品株式会社				
(備考)				
医療健康学部は2021年度に設置し、完成年度を迎えていないため、卒業者がいない。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
・毎回の授業テーマ及び授業内容の記述を体系的な視点から授業の位置付け・学修の狙い等が分かるよう配慮した記述とすべく、授業方法に、講義・演習他、アクティブ・ラーニング方式等をシラバスに明記するよう依頼し、実質性のない授業計画にならないよう具体例を提示したシラバス作成要領を準備している。

・シラバス記載項目として、授業(含実務経験のある教員等の実務経験を活かした実践的教育授業)の内容・方法、各回の授業計画、到達目標、成績評価の方法・基準、事前事後準備学修、試験・課題等のフィードバック方法に加え、教科書・参考文献・成績評価基準に対するの補足記載欄、特記事項・関連科目や履修上望むこと・授業に関する質問への対応について項目を設けている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスにおいて予め学生に示された成績評価基準(平常点・試験・レポート・その他)により厳格且つ適正に評価を行っている。各項目については曖昧さを排除するために、詳細欄を設け、補足的な説明を付すことにより成績評価基準をより明確に示している。 ・1年次生の履修科目(必修)において、ルーブリックを基に評価をしている。 ・学位授与基準及び学位授与手続きについては、ディプロマ・ポリシー、及び卒業要件の形で学生ガイドブック【履修編】に明示され、また年度初めのガイダンスで説明を行っている。 				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
商	商	124 単位	有・無	40 単位
	経営	124 単位	有・無	40 単位
経済	経済	124 単位	有・無	40 単位
言語コミュニケーション	英語コミュニケーション	124 単位	有・無	40 単位
国際関係	国際関係	124 単位	有・無	40 単位
	国際メディア	124 単位	有・無	40 単位
人間社会	福祉心理	124 単位	有・無	40 単位
	人間スポーツ	124 単位	有・無	40 単位
	スポーツ科	124 単位	有・無	40 単位
医療健康	理学療法	130 単位	有・無	40 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

入学年度 ・時期	学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
2022	商	商	850,000 円	250,000 円	300,000 円	施設費
		経営				
	経済	経済				
	国際関係	国際関係				
		国際メディア				
	人間社会	福祉心理				
	言語コミュニケーション	英語コミュニケーション	900,000 円			
	人間社会	人間スポーツ	910,000 円			
スポーツ科学						
医療健康	理学療法	910,000 円	640,000 円	施設費 400,000 円 実習費 240,000 円		

2021	商	商	850,000 円	0 円	300,000 円	施設費
	経済	経営				
	国際関係	経済				
		国際関係				
	人間社会	国際メディア				
	人間社会	福祉心理	900,000 円			
	言語コミュニケーション	英語コミュニケーション				
人間社会	人間スポーツ	910,000 円				
	スポーツ科学					
医療健康	理学療法	910,000 円	640,000 円	施設費 400,000 円 実習費 240,000 円		
2020 2019	商	商	850,000 円	0 円	300,000 円	施設費
	経済	経営				
	国際関係	経済				
		国際関係				
	人間社会	国際メディア				
	人間社会	福祉心理	900,000 円			
	言語コミュニケーション	英語コミュニケーション				
人間社会	人間スポーツ	910,000 円				
	スポーツ科学					
2022 秋入学	経済	経済 English Track Program	450,000 円	250,000 円	150,000 円	施設費
	国際関係	国際関係 English Track Program				
2022 春入学	経済	経済 English Track Program	900,000 円		300,000 円	
	国際関係	国際関係 English Track Program				
2021 秋入学	経済	経済 English Track Program	1,000,000 円			
	国際関係	国際関係 English Track Program				
2021 春入学	経済	経済 English Track Program	1,100,000 円			
	国際関係	国際関係 English Track Program				
2020 2019 春学期/ 秋入学	経済	経済 English Track Program	1,100,000 円	0 円	300,000 円	施設費
	国際関係	国際関係 English Track Program				
2018 秋入学	経済	経済 English Track Program	1,000,000 円			
	国際関係	国際関係 English Track Program				

休学中の学費として、1年間休学する場合、施設費 300,000 円（人間スポーツ学科、スポーツ科学科、理学療法学科は 400,000 円）、半期休学する場合、施設費 150,000 円（人間スポーツ学科、スポーツ科学科、理学療法学科は 200,000 円）納入することとする。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>○オフィスアワー制度 本学では「オフィスアワー制度」を全教員の責務として実施し、学修相談・修学支援などの充実を図っている。</p> <p>○シラバスの充実による支援 授業内容に関する学習指導を適切に実施するため、シラバスには「授業に関する質問への対応」を記した項目を設け、授業に関する質問への対応可能な時間や場所を掲載しており、専任および専任以外の教員にも相談することが可能であることを学生に周知している。</p> <p>○履修指導支援 年度当初に実施している、新入生及び在校生別に行われる学部ごとのガイダンスでは、新入生へは、履修についての説明だけでなく、実際に時間割を作成させ、個別相談を行うことで履修についての不安を解消している。また、GPA が低調な学生、出席状況が思わしくない学生については、履修指導室において個別指導を行っている。</p> <p>○語学学習・留学支援 語学学習の充実と留学を希望する学生のために、補習・補充教育支援の機能も含め自発的な英語学習の拠点として、授業時間のほかに常駐する英語ネイティブのGTI(Global Teaching Institute)教員から英語学習を受けられるEnglish PLAZA を開設している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>○教育課程 各学部の基礎教育分野のTIU コア科目に自身のキャリア形成を考え、4年間の行動計画を作成する「大学生活デザイン演習」を1年次生に対し学部横断の必修科目として開設し、充実したキャリア形成に向かう第一歩としている。</p> <p>○個別指導・就職支援デスク キャリアセンターでは、学生一人ひとりの立場に立って最適な進路が選択できるように、きめ細かくアドバイスする「個別指導」を行っている。本学の特色のひとつである体育会強化クラブの学生に対しては、その特性を活かした希望の企業に就職できるよう「アスリート就職支援デスク」を設置し、専門のコンサルタントがサポートしている。また、イングリッシュ・トラックの学生に向けては外国籍含むバイリンガルスタッフを配置し、各種支援行事の英語での開催や、日英両言語での相談体制を整えている。</p> <p>○就職ガイダンス 就職活動が本格化する学部3年生に対して、学生が計画的に就職活動を行えるよう、「就職ガイダンス」「業界研究セミナー」「エントリーシート・履歴書セミナー」「面接特訓セミナー」などのガイダンスや各種セミナーを開催している。また、「学内企業説明会」を複数回開催し、内定獲得に繋がる機会としている。外国人留学生には「外国人留学生就職ガイダンス」英語での「キャリアガイダンス」や各種セミナー、福祉系の学生には「福祉就職ガイダンス」、公務員を目指す学生には「公務員ガイダンス」を行うなど、学生の特性や進路希望に合わせたガイダンスやセミナーを開催している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮として、第1キャンパス及び第2キャンパスに看護職員が常駐する保健室を設置し、健康診断の実施や要再検査学生への指導、疾病者の応急処置を行うとともに学外の病院とも連携して緊急時も適切な処置が取れる体制を整備し、学生の健康安全を支えている。また、本学では2017年度に学内全面禁煙を実施、2018年度には東京国際大学禁煙宣言を策定し、禁煙教育、啓発活動の推進、学外での本学関係者の喫煙抑止を呼び掛けている。専門のカウンセラーが対人関係や、こころの不調などの相談に応じる学生相談室も第1キャンパスに設置し、保健室、学生相談室が相互に連携して心身の健康保持・増進を図っている。コロナ禍では、メールやオンライン (Zoom) での相談も行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/</p>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		375人	383人	－
内 訳	第Ⅰ区分	228人	226人	
	第Ⅱ区分	88人	105人	
	第Ⅲ区分	59人	52人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				415人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	15 人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	13 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	21 人	人	人
計	49 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0 人
年間計	—

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	54人	人	人
計	80人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。